

ばんけい

教育ほつとにゅーず
かわら版こ みち
教育の小径 No.99
2017 January
1月号国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月のごとき

願を懸ける

神仏に事が成功したり達成したりすることを祈り願うことをいいます。懸けるには、すべてを託すとか、委ねるといった意味があります。

表現力とは何か—指導のヒント

- 表現力とは、自分の考えや思いなどを言語や音楽、絵画などで表現する力であるだけでなく、人として生きている表情などにも表れます。
- 全人的な力としての表現力は、言語活動を充実させるとともに、教師など周囲の人的な環境を豊かにすることによって、より豊かに育っていきます。

全人的な力としての表現力

一般に、表現力と言えば、文章を書く力や話す力、コミュニケーション能力など、言語を使って表現する力を指すことが多いようです。社会生活において書く活動や話す活動は日常的に行われており、言語による表現力を身につけ、発揮できることは生きていくうえでも大切なことです。

表現力を広くとらえると、音楽や演奏、絵画や造形、書道など芸術的な表現力や、リズム体操など体による身体的な表現力も含めることができます。あらゆる教科等において表現力の育成が求められているのは、表現力を広くとらえているからです。

さらに、その人の考えや思い、感情など心の状況は、言語によって表出されるだけでなく、表情や身振り、振るまい、行動や態度などにも表れるものです。人は嬉しいときには顔の表情が明るくなり、振るまいもはつらつとしたものになります。逆に、つらいときには表情が暗くなります。これらはいずれも人として表現している姿です。

このように見てくると、人として生きていることがすなわち表現していることだと言えます。表現力は主体的に生きている力そのものです。思考力、

判断力、表現力などと3つの力を並列的に言い表すことが多いですが、そのうち、表現力は理解力や思考力や判断力を基盤に据えた、より大きな意味内容をもっていると言えます。

表現力育成は人づくり

子どもに表現力をどう育てるかを考えるとき、どうしても書く力をどうつけるか、話す力をどう養うかといったように、言語に関する能力を育てることを考えがちです。このこと自体誤っている訳ではありませんが、方法や技術を考えるまえに「言葉のもつ力」について考える必要があります。

「言霊（ことだま）」という言葉があります。国語辞典によると「言葉に宿っている不思議な霊威」（広辞苑）とあります。霊威とは優れた不思議な力のことです。人の心は言葉に表れます。言葉は相手の人の心に影響を与えます。心の優しい人の言葉は人を優しくしたり励ましたりします。逆に、言葉は人をいじめたり陥れたりすることもあります。言葉はそれを使う人の心によって、諸刃の剣になります。

表現活動は自分を意識して自己内対話として行われることもありますが、ほとんどの場合、他者とのあいだで相互に行われます。他者との良好な関係

がつくられていることが表現力の育成にとって重要な要件です。

表現力を育てる営みは心を耕すことであり、人づくりだと言えます。人は環境のなかで育ちます。環境には物的なものほかに、人的な環境や雰囲気のような空気があります。

カギを握る教師の表現力

子どもたちに表現力を育てるとき、言語（言葉）の力を生かし、話すことと書くことを重視します。言語による表現活動を充実させると、言語による表現力が育っていきます。

話す活動や書く活動を展開するためには、話す、書くためのテーマがはっきりし、話したり書いたりする内容がなければ活動として成立しません。内容を理解させるとともに、自分の考えをしっかりとらせる指導が大切です。

授業は子どもと教師による、主として「言語を使った共同作品」だと定義づけることができます。このことから表現力は、子どもだけでなく、子どもたちに強い影響を与え、人的環境の中心に位置づく教師にも求められます。

教師のパフォーマンス力が子どもの表現力を豊かにします。子どもに表現力を育成するとき、教師の表現力が重要なカギを握っているとと言えます。

今月の
記念日スキーの日
(1月12日)

1911年(明治44年)のこの日、新潟県の高田陸軍歩兵連隊の青年将校が、オーストリアのレルヒ少佐から日本人として初めてスキーの指導を受けました。これを記念して1994年(平成6年)に制定されました。

学校の危機管理

危機発生時の対応

ここでいう危機には、子どものけがや病気や嘔吐、火災や地震の発生、外部からの不審者の侵入など、さまざまなケースが考えられます。いずれも正常な学校生活が脅かされる場面です。危機的な状況とはこうした非日常的な場面に遭遇したときを言います。危機への対応の仕方は発生した危機的な場面によって異なります。基本的には次のようなことがポイントになります。

まず、状況の把握です。子どもがけがをした場合には、どこをけがしているか。その程度はどうかなど、状況を的確に把握します。首から上のけがは要注意です。移動させると却って危険になる場合があります。状況の把握を誤ると、その後の対処方法が違ってしまふこともあります。

次は、状況の伝達です。担任が一人で対応しなければならないときもありますが、通常は管理職や養護教諭などに連絡します。近隣の教室にいる教師に知らせることもあります。担任は現場を離れないようにします。

そして、必要に応じて外部の関係機関と連携をとることです。けがや病気のときには救急車を要請します。病院に直接搬送することもあります。教育委員会や保護者にも報告します。大切なことは、管理職の指揮のもとに組織的に対処することです。

さらに、周囲の子どもたちへの指導です。動揺している子どもがいる場合には落ちつかせ、不安感を抱かせないようにします。教師のあいだで分担して事に当たることが求められます。

危機的な場面に遭遇すると、慌てたり、無駄な行動をとったりしがちです。冷静に対処することが大切です。

教育の動向



全国学力調査の結果

文部科学省は本年度に実施した学力調査の結果を公表しています。それによると小学校において、基礎的な知識や技能の習得状況を把握するA問題は、国語科の平均正答率が73.0%、算数科が77.8%でした。いずれも概ね良好な結果だと言えるでしょう。

一方、習得した知識や技能を活用して解くB問題については、国語科が58.0%、算数科が47.4%でした。いずれも満足できる状況ではありません。A問題と比べてみると、国語科は15%も低く、算数科では30.4%も開きがありました。

算数科では、資料から読み取ったことを根拠に自分の考えをもち、それを説明するといった記述式の問題の正答率が低いという結果でした。

今回の学習状況調査では、アクティブ・ラーニングに関する項目が付け加えられました。例えば「自ら考え、自分から取り組んでいたと思うか」「考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うか」と聞いています。

いずれにおいても「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答している子どもは、学力調査においても平均正答率が高かったといます。このことは能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を推進することが学力向上につながることを立証しています。

シリーズ 研究授業の目 12のポイント 3

子どもの発言をどう引き出すか

研究授業の参観者は、教師がどのような言葉かけをし、それに対して子どもたちはどのように発言しているかといった、教師と子どもたちとの言語によるやりとり注目します。

優れた授業は、教師が知識を伝達する説明型ではなく、子どもたちから発言を引き出しながら、教師と子どもたちが共につくっていく授業です。

子どもの発言を引き出すには、発問の内容を次のように工夫します。

まず、答えが1つでない発問をします。1つの場合には、ある子どもが正解を答えると、教師は次の発問を用意しなければなりません。このような授業は、子どもと教師の発言が1対1の対応になってしまいます。複数の答えが出されるようにするには、なぜ、ど

うして、どのような、どのようになど疑問詞を含めて発問します。

次に、「どうしてそのように考えたのですか」と、発言の根拠や理由を聞き返します。仮に結論は同じでも、根拠が違っていることがあります。考えの違いがより明確になり、子どもの発言の内容に多様性が生まれます。

学級に違いを認め合い、一人一人の個性や多様性を尊重し合う人間関係がつくられている必要があります。こうした支持的な学級風土のなかでこそ、子どもたちは伸び伸びと自分の考えを発言するようになります。

さらに、ノートなどに書かせて考えをまとめさせる。時間をとってどの子どもにも考えさせる。2人であるいはグループで話し合い、その後発言させるなど、教師は子どもの発言を引き出す技術を身につけることも大切です。

INFORMATION

北俊夫先生の著書

定価：各950円+税

最新刊

だれでもできる
**社会科
学習問題
づくりの
マネジメント**



A5判 104ページ

こんなときどうする！
学級担任の
危機対応
マニュアル



A5判 96ページ

なぜ子どもに
社会科を
学ばせるのか



A5判 104ページ

言語活動は
授業をどう変えるか
—考え方と実践のヒント—



A5判 112ページ

編集後記

日本人は表情に乏しく表現力に欠ける、というのが国際社会での定評だと聞いたことがあります。OECDが定義づけたキーコンピテンシーの第一が「相互作用的に道具を用いる」ということから、国際社会での表現力の重要度がうかがえます。(F記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2017年1月1日